大河原町まち・ひと・しごと創生会議

第５回会議

平成27年10月22日（木）

○事務局　第５回目ということで、これが最終という形になるかと思います。それでは、大河原町まち・ひと・しごと創生会議、第５回目の会議を開催させていただきます。

まず初めに、会長からご挨拶をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

○尾形会長　本日は、第５回目の会議で最終回でございますので、起立いたしましてご挨拶をさせていただきたいと。

５月15日に第１回目の会議を開催し、６月は休会でございましたが、７月、８月、９月、そして10月と、第５回目まで会議を開催いたしまして、大河原町のまち・ひと・しごと創生に関するお話し合いを、意見交換を活発にさせていただきました。企画財政課の事務局のほうからは、いろいろと取りまとめの内容の報告をいただきながら、それに対して意見を申し上げてきたわけでございますが、当大河原町、2030年、そして2060年段階の少子化を、減少を防ぐべく、どういうふうな施策をとっていくべきかと、真摯に意見交換をしてまいりました。

不肖私の会長としての会の運営、非常に未熟でございまして、皆様にはご不満もおありであったのではないかと猛省しておる次第でございます。お許しいただきたいと思いますが、免じて最後の会もひとつよろしくご支援賜りながら、第５回目の創生会議を開催させていただきたいと、こう思っております。よろしくお願いいたします。

○事務局　ありがとうございました。

それでは、会議のほうに入らせていただきたいと思います。進行につきましては、会長、よろしくお願いをしたいと思います。

○尾形会長　それでは、本日の会議の事項は、その他まで５つございますが、まず第１番目、大河原町まち・ひと・しごと創生総合戦略の素案について（総合戦略の全体像より概要を）、これは現在までいろいろと審議をしてきてまいりましたものを、最終的に取りまとめた姿でございます。こういう観点からひとつ事務局からご説明いただきながら、そういうふうなものであるということをご理解いただきながら、答申いただきたいと思っております。

（事務局より資料説明）

○尾形会長　ありがとうございました。

ただいま事務局から、４回にわたりましていろいろと論議をし、意見を出し合い、申請し、

さらにまとめたというような形での総合戦略の最終版、これの説明をいただきました。本来ならば、この意見交換ということなんですけれども、ここまで一応まとまってきておりますので、これをさらにご意見を出していっていただいて、ここ修正するとかというような、そういう段階ではございません。皆さん、ただいまお聞きのとおり、まず将来にわたっての、例えば2060年という一つの大きな段階があるわけでありますけれども、それに向かっての大河原町のまず現状認識から始まりまして、そして各種の数値をもとにいろいろと検討、考慮して将来展望というものを一応整理をしたと、こういうことでございます。したがいまして、各施策の中には、希望が実現されればこうなると、あるいは出生率の件につきましては、出生率がこういうふうに進めばこうだというような、決してればたらではありませんけれども、ある状況が好転すれば、また好転するように進めれば、こういうふうになるだろうと、こう持っていきたいと、こういうのがこの取りまとめの内容であるというふうにご理解いただいたほうがよろしいのではないかと、かように思います。

したがいまして、本日の意見交換は、ただいまの冊子の説明を踏まえまして、大河原町の将来展望をさらに皆さんとともに語り合うといいますか、あるいはこういう点が一つキャンペーン活動の大きな中心にしたらいいんじゃないかな、必ずしもここに書いてあることだけじゃなくて、皆さんのそれぞれお受けとめになられた感覚で、このまち・ひと・しごと創生総合戦略ということに対する私見といいますか、ご意見といいますか、そういうものを出していただければと、かように思う次第でございます。

○委員　では、まず今回提示いただいた素案を拝見しまして、国の方針をもとに、町の現状を踏まえながら、短い期間でここまでまとめられておりまして、今後の戦略等しっかり練られていたことにまず感銘を受けましたということでお話がありました。それから、役場のスタッフの方を初め皆様方のご尽力に大変頭が下がる思いです。

強いて挙げれば、まちへ活力をということで、しごとをつくり、安心して働けるようにするという視点から、企業誘致であったり、新規創業であったり、新規の就農なども方針が挙げられていました。雇用をふやす、定住者をふやすということで、将来を見据えた視点の中では欠かすことができない大事な施策だろうということは十分に理解しております。

一方で、今現在、大河原町内で経済活動を支えている企業、こういったところのサポートという視点がちょっと入っていないのではないか。この雇用を創出するという点、今現在頑張っている企業を支えるということも雇用の創出、安心して働ける職場づくりという国が掲げるしごとの創生には欠かせないのではないかというふうに感じるということです。創業だけではな

くて、大河原町で会社をこれからも永続的に経営していきたい、そう思って頑張っている企業の方々を何らかの形でサポートするという視点も大事なのではないかというふうに捉えております。新しい職場の創出、それから今現在頑張っている既存の企業のサポート、この両面でいくことが今後大河原町内でより経済活動が活発になっていって、さらなる雇用の維持、それから住みたくなるまちになっていくのではないかというふうに感じております。

では、具体的にどのようなことかと言われますと、なかなか難しい課題にはなるかとは思いますが、率直に今回の素案を見まして、あえて強いて言うのであればというところです。

○尾形会長　ありがとうございました。

○委員　重点施策含めて、この概要の取り組み内容進めていくとすると、これ47項目ぐらいありますね。これは大変な項目だと思うんですけれども、それに対して取り組むためのまず組織体制図、はっきり提示していただきたいということと、あと例えば、この取り組み内容の１番にありますけれども、企業誘致活動の強化、どんな活動をするんですかといった場合、やはり町民の方のいろんな活動の仕方のアイデアとかを取り入れながらやったほうが、いろんな施策が生まれると思うので、そういったのを聞いて取り組んだらいかがでしょうか。ちょっとご提案させていただきます。

以上です。

○尾形会長　ありがとうございました。

確かに、この大きな、今、企画財政課は鋭意いろいろ関係各所に働きをかけてここまでまとめてきましたけれども、これを平成28年度の予算に具体的に展開していくということになりますと、その検証とか、その進め方とか、いろいろと問題も出てくると思いますので、企画財政課だけが事務局としてこれを進めていくことは非常に難しい仕事です。したがいまして、ただいまのご発言のように、この大きなテーマを抱えて大河原町は今後進めていくためには、それなりの組織体制といいますか、それをあずかる組織体制が必要なんじゃないかと、こういうご意見だと拝聴いたしました。ぜひその点につきまして、町長さん始め事務局の方々、よろしくお受けとめいただきたいと、こう思います。

どうぞ、ほかにございませんか。

○委員　今、企業誘致活動の強化ということでオーケー出ましたので、あわせてそれに関連するということで、前回のときもちょっと質問という形でさせていただいたので、改めてちょっと確認という意味合いで質問させていただきたいんですが、現在、みやぎ県南水素エネルギープロジェクト協議会ということで、当町が一応、５つの森林組合を中心に協議会を設置してい

るということは承知して、ご案内していただいているんですけれども、あと町長さんもでご案内していらっしゃるということで、町民の皆さんもご認識されていただいていると思うんですが、一つは企業誘致の目標数値として２件ほど挙げられているんですが、その２企業については、このいわゆる新しい協議会に基づく水素ガスを発電した電力の販売等の企業をイメージしているのか、あるいは後段に出てきました広域市町村が協力した企業誘致活動の概念に含まれるのかということの質問点が一つ。

あと、もう一つは、将来的展望ということで、皆様ご案内のとおり、来年度から電力自由化ということで、消費者が電力会社をそれぞれ選択するような動きというか、ことになっていまして、それぞれ各企業体に向いているというふうに思っています。将来的に、このいわゆる水素ガスと水素ガスにより発電した電力の販売がいつごろ見通しなのかということの見通し、将来的な展望、それは逆に言わせていただければ、そういう来年度の電力自由化に基づく消費者がそれぞれ選択するというこの時期に、いつごろできるかということを町民に示すことができれば、一ついわゆる地産地消ということで、大河原で売電すれば、大河原でつくった電力を町民が消費するということで、地産地消という立場で地方創生の一つのシンボルになるんじゃないかといういわゆる問題意識で一応お聞きするというか、質問という形になります。

ちなみに参考までに、皆様もごらんだと思うんですが、朝日新聞の僅々、ここ二、三日で新聞でいえばみやぎ生協さんで廃棄物の再資源化が、あるいは南三陸町でリサイクル大手のアミタ、これ東京なんですが、生ごみやし尿でバイオガスを始めたということで、あと、新聞による知識で申しわけないんですが、資源エネルギー庁、いわゆる国の固定価格買取措置の認定を受けた東北のバイオマス発電所は６月末で32カ所ということで、そういった意味で、この文面から見ると想定されるのは、木材の間伐によるいわゆるバイオマス、いわゆる電力化という形で私自身は認識しているので、もし間違っていればご指摘いただけると思うんですが、そういったことであれば話し合いの重複なんですけれども、地産地消という意味合いで、いわゆる全体的な地方創生の一つのシンボルになるんじゃないかということでの質問と、将来的展望へのということでの意見ということで、発言させていただきました。

○尾形会長　ただいま３点ほど質問、ご意見あわせたような形の提言がございましたが、それに対して、町長さん、あるいはまた事務局のほうからお答えすることができますれば、どうぞよろしくお願いします。

○伊勢町長　本当に貴重なご意見ありがとうございました。

企業誘致は大事であるけれども、現在の企業のサポート、これもしっかり取り組んでまいり

たいと思っており、それから、町民のアイデアを入れた企業誘致にも取り組めということで、これも心に入れながらやっていきたいと思っておりますし、また組織体制につきましては、これは地方創生、この事業始まる前から役場庁内で検討しているんですけれども、最近では複数の課にまたがる複合的な政策がいっぱい、例えばワークシェアリングは子育てでもあるし、それから働き方とかで雇用の問題でもあります。健康づくりというと、スポーツとそれから福祉関係という、いろんな複合的な政策がありますので、今後はそういった複合政策にまたがるようなことを中心にやるような部署を創設しようということで、若干人材もふやしていこうということは今、前途始まったばかりでありますけれども、貴重なご意見ありがとうございました。

それから、水素プロジェクトの話でありますけれども、まず目標の年次ですけれども、順調にいって４年後ぐらい、東京オリンピックの前までできればいいなというような感じで、と申しますのは、提携している企業さんが東京ではオリンピックに合わせてトヨタの燃料電池バスを動かすんですけれども、要するにオリンピックの会場を、それを化石燃料由来ではなくて、再生可能エネルギー由来ということで、東京都汚泥を原料としたものから水素をつくろうということで、その後、技術を持っている企業と、大河原で企業誘致といいますか、企業立地をお願いしている企業と同じ企業なんです。そういったことで、それもオリンピックの前までということで、ただ、ことし11月に輪島で第１番目のプラントが建設着工になるというようなことを聞いておりまして、これは世界で初めてで、大河原はその２番手、あるいは３番手ぐらいで、極めて特殊な技術なもんですから、大河原町の脚光はこれから浴びるかというふうに思っておるところでございます。

それから、電力自由化とは直接関係ないということと、それからＦＩＴを利用して、水素を利用する方法２つありまして、ガス発電、生ガスで発電する方法と、それから燃料電池にかけて電気をとる方法、両方あるんですけれども、そのハイブリッド型を研究している、率直に言うと、ＧＥというアメリカの会社ですけれども、その技術を利用することも展望にするならば、それも４年後に商用化するということで、目標にしているということで聞いておりますので、そういったことも新しい効率的に物すごくいいということで、それも視野に入れながら、それができなくても、今、水素ガス発電をするという機械ももう既にありますので、それで輪島のはスタートするとよく聞いております。そんなことで、ＦＩＴを利用してやる方法と、それからなかなか電力会社も最近、太陽光設置でしょうか、電力をＦＩＴで買うのに少し今までよりも積極性がなくなったという感がありますので、そういった場合どうするかということになりますけれども、そうすると、水素を販売するという手ももちろん展望しながら進めてまいりた

いと思っておりまして、そのためには燃料電池自動車、あるいは家庭用燃料電池の普及が欠かせませんので、そのためには、これはもう町でできる仕事ではありませんので、県や国を通じて、もう二、三年前から機会あるごとに、国や県に対してそういう水素社会を目指して政策展開するようなことも言っております。

さっき、地産地消、これエネルギーの地産地消ということなんですけれども、これをするには大河原町ではもう狭過ぎますので、ちょうど県南地域全体のバイオマス、１年、２年成長する分、これがあればいいということで、たまたま県北ではバイオ発電盛んですけれども、県南はほとんどないということで、県南の森が一番今荒れているといいますか、森が病んでいますので、そういったことで、森林組合さんのほうも大変期待をされておりまして、事業化に向けて今検討中でありまして、来年できれば特定目的会社をつくって、支店を集めてスタートできるということで、これからまさに緒についたばかりということで、早ければ４年後にその企業が営業開始できるということで、企業誘致としては来年、再来年に企業誘致をできると。

２件という、ここにありましたけれども、この２件はまた別であります。もう既に一応値段がついているのもあります、ご参考までに。それとは別にこれプラスアルファで、今の企業誘致というのも、その企業さんがベンチャー企業ですけれども、大河原町にぜひやってはどうかというありがたいお話があったので、町としてはそれをお受けしましょうということで、あとまたメガソーラーの事業をやりたいという企業も、これもっと別にありますが、エネルギー関係で何社か大河原町に進出したいということでありますので、そういったものを足せば、２件は十分に達成できるのではないかというふうに思っております。

そんなことで、一応全部お答えしたつもりですけれども、以上でございます。

○委員　基本的に電力自由化そのものが町長さんお話しした設置、来年度の４月までに設置されればという仮定の話なんですけれども、そうすると我々も電力会社が選択できるので、そういった意味の電力自由化ということで、もし誤解があったら、そうすると、町民、大河原では使えないんだけれども、仙南ブロックでつくった電力を我々仙南の住民が使うという意味での地産地消、大きな意味での地方創生になるんじゃないかという意見という立場から、もし誤解があったら。

○伊勢町長　委員、そういう方向も検討してもいいかなと私は思っています。要するに、売電するだけではなくて、大河原町でそのＳＰＣですか。会社をつくるのはちょっと検討したんですけれども、ちょっと大変な作業ありますので。

○委員　東北電力さんに電力を売るという会社で、いわゆる直接消費者に売るという会社とい

うことのイメージではないと、そういういわゆる複雑な法人、それは私の誤解でした。

○伊勢町長　そこはＦＩＴがどうなるんだといろいろ条件がありますので、いろんな選択肢がありますので、それを念頭に置きながら進めてまいりたいと思います。

○委員　新規もそうですけれども、既存企業の活性化というのは必須だと個人的には思っております。前にお話ししたように、企業誘致された会社と雇用のミスマッチが起こらない、一番はやっぱり地元の企業から活性化して、その地元に合った雇用を生んでいくということが一番重要だと思うので、それについてはぜひ強化していただければなというふうに思います。

また、ヒルズさんとか、三全さんとか、地元にも非常に有力な会社がありますので、そこをぜひうまく使っていただければなというふうに思います。

また、空き家対策等についてですけれども、200件あるということで、以前にもちょっとお話ししたんですけれども、三世代住宅よりも近居、母子の近居が非常に今有効だというふうに言われています。また、待機児童についても、そういう施設をつくるよりも、そのおばあちゃん、おじいちゃんに預かっていただくというほうが安心ができるということと、コストがかからない。共働きで働いても、保育費に非常にコストがかかってしまって、働いている価値をどこに見出すのかという話もありますので、それが今おじいちゃん、おばあちゃんとそばに住むことによって、そのコストがかかりにくくなりますし、またおじいちゃん、おばあちゃんにとっても、これから生きがいの一つだというふうになっていますので、それをうまく回るように、そういう意味で、空き家を子供さんがいらっしゃるだろうところに優先的にあっせんするとか、またそれについて一つできるかどうかですけれども、町営住宅として借り上げてしまって、それをあっせんするという形でその維持管理をしていくということが考えられるかなと思います。

また、観光に関してもですけれども、皆さん感じているのかどうか、私よく思っているんですけれども、仙台に行く電車が早く終わってしまうために、仙台からこちらのほうに来られた方が早目に帰らなければいけないという意味で、飲食についても非常にちょっと厳しいところがあるんですけれども、安価な、電車の時間が遅くまで延びるというのが一番だと思うんですけれども、なかなかＪＲさんとの兼ね合いで難しいときに一つ思うのが、安い宿泊施設があると結構いいかなと思うんです。最近、特に思うのが、秋田のシェアハウス、ゲストハウス。沖縄とか京都とか行かれたらいいんですが、民家を宿泊に変えて１部屋に２人、３人住むことで、１泊、非常に安価に提供されている、今宿泊する施設がふえています。また、東京オリンピックに向けても、当然ですけれども、ホテルとか足らなくなるということで、空き部屋を宿泊に貸せないかという話を、今、多分、東京都のほうでもやっていると思うので、それについては

東京でなくても、地方でできるんじゃないかなと。特に、空き家がふえているし、さっき人口は減っているけれども、世帯はふえているという話ありましたように、住んでいる部屋が余っている方が非常に多くなっていると思うので、そこを貸すことによって、また小遣いができたりとか、地域活性につながって、なおかつ泊まることによって飲食がある、お金が落ちる可能性がありますし、そういう意味では、そういうことを率先してやっていくことで、ゆっくり遊んでいってください、さらにゆっくり遊んでいってくださいということがつながっていくんではないかなというので、そういう環境づくりというのがあればいいかなと思います。

　また、そういうことの全体的なことですけれども、ビジュアル書いていただいているので、非常にありがたいことなんですけれども、やっぱり情報発信というのは非常にこれに対して全てに、これやったことがぴしっと伝わるかと、対象の方に伝わるかというのが非常に大きなことだと思いますし、やったことに対する評価についても、やっぱり情報発信というのが非常に必要なので、先日、丸森町のほうで会議があったときに、放射能の話が少し出たの、話がトーンダウンしているのではないかということをスタッフの方に聞いて、積極的に出す、出さないはこれ何ともいえないんですけれども、聞かれたときにすぐ出させるような状況つくっておくということは非常に重要だと思うので、そういうのでも全てのことについて情報化が必要だと思うんです。今、ビッグデータとかといろいろ言われていますけれども、町が持っている情報についてはすぐに開示ができるような体制づくりがあると、いろんな方からの問い合わせについてもすぐできますし、またデジタル化されていることによってホームページであったりとか、いろんなところに開示ができる。また、今後ですと、アプリですね、スマホとかいろんなアプリの制作に対して、ほとんど何がやるかというと、データの抽出しかないんですね、普通に。公共のトイレどこにあるかとか、その座標軸どこにあったりとか、そういうものとかは全てデータに打っていれば、アプリを使って、便利アプリというのを使えるんですけれども、そのデータがなければもともと使えないので、それ以上そういう制作意欲を出すためにも、いろんなものをデジタル化、データ化していくことが非常に重要かなというふうに思います。大体そんな感じです。

○尾形会長　子育て中のお母さんたちの保育の問題、これからの将来的に働きやすいようなそういうふうな政策をこれからもつくっていきたいというような内容になっておりますけれども、この観点を一つ何か所見等をひとつ。

○委員　私もこの計画の中でと、自分たちの仕事の過度を考えますと、やはりここの若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえると、ここのところでやはり人を育てるというのが私た

ちの一番の仕事といつも考えながらしておりますけれども、人があってのまちですし、人があってのいろんなことがなされるんではないかなと。今、小さい子供たちですけれども、私たちの後、これから担っていく子供たちですので、やはりこの子供たちが健やかに育つようにするにはどうしたらいいんだろうかということをもう少し考えていっていただきたいなと思います。

その子供たちを育てるのが、私たち職場の者だけではなくて、やはり身近にいるお母さんら、お父さん、おじいちゃん、おばあちゃん。やはり私もおじいちゃん、おばあちゃんの力をおかりするというのは大賛成で、いつも保護者にもそのことは伝えております。自分だけではできることではないので、いろんなことで協力していただく体制を常にとっておいてくださいねというような話はしているんですけれども、やはり核家族がどんどん大河原も多くなってきています。私の住んでいる金ケ瀬もそうですけれども、多くなってきているので、自分だけで悶々として子供を育てている、そしてどこに悩みを打ち明けたらいいのかわからないというようなことで、そういうお母さんたちがたくさんいる中で、やはり今のネットワークの中に、わからなければそういうので聞き合う。でも、いいこと教えてくだされば いいんですけれども、反対にいいことよりも、そういうときには反対の意見のほうが、皆さんから自分に都合のいいような意見などのほうが結構多くお母さんのほうに、間違った情報などが流れてくるということもありますので、今いきいきプラザのほうで相談員の方々が常備いらっしゃいますので、やはりああいう方が土曜日とか日曜日などもできるんであればやはり常備いらして、どなたでも行って悩みが相談できるような体制があってはどうなのかなと思います。私の保育園でもやはりお母様方が子供をどう育てればいいのかわからずにキレたり、暴力を振るったりという家庭がないわけではないです。そして、言葉の暴力がやはりすごいですね。そういう子供たちが大きくなったらどうなるんだろうと思うような、一時期やはり町内も中学生が大分荒れたような時代がありまして、今はすごく落ち着いておりますけれども、そういうふうなことがまた繰り返されるのではないかな。そのときの方々が今お母さん、お父さんになっていますので、やはりちょっと悪循環もありますので、やはりこの人を育てるというところを町としてもこういう施策がたくさん出ておりますので、お金を出せばいいとか、集いがあってどうの、そういうことじゃなくて、常にやはり見守り隊みたいなことであったり、あと相談がすぐにできるような体制を今後もとっていただけたらいいなと思っております。

○尾形会長　結構な意見ありがとうございました。

ほかにどなたか、何でも結構でございますから。

では、実は、ＮＨＫの夕方の「シブ５時」というテレビございますですよね、「シブ５時」、

５時ごろのテレビ番組なんですがね。きのう、おとといかな、実は、ああこの創生会議をちょうどあしたで終わるんだけれども、きのう見た番組がもう少し早くあったらよかったかなと思う番組があったんですよ。と申しますのは、これは町長、非常に関心のあるところなんですけれども、例の消滅町村云々というのは、増田さんリポートつくりましたよね。それで、六百幾ついずれ消滅する町、村が出てくると。

宮崎県に小林という市があるんです、ちょっと鹿児島県寄りに。それで、そこが非常に何といいますか、いわゆる消滅市、市なんですけれども、消滅市町村の非常に何といいますか、大きな対象といいますか、そういうふうになりつつあるんだということで、どうしたらいいかということで、役場の方々が一生懸命、今、頭ひねっているんです。企画政策課というのがありまして、そこの若い担当の方が、東京の友人のところに遊びに行ったんです。そのときに、地下鉄の電車にその人と友人が乗ってしゃべっていたと、そしたらその小林市の地区の方言というのは、ほかの人が聞いてもわからない方言、非常にフランス語的な方言なんだそうですよ。そしたら、脇に立っていた人がフランス語しゃべっていたんですかとその人に聞いたんだそうです、恐らく冗談に聞いたんだろうと。そのときに、役場の企画政策課の何とかという若い人が、これはしめたと、一つのアイデアをもらったということで、その言葉を使った小林市を紹介するビデオ制作を考え出したと。そのビデオ制作の、それ画面が、ＶＴＲで一つ流したんですけれども、それは川があって、山があって、商店があって、何か食べ物があるとかというビデオじゃないんですよ。フランス語的だと言われたので、全くのいわゆる方言で、フランス人を連れてきて、フランス人が村なり町なりを歩くんですから。そうすると、木にとまったトンボが何かこうずっと飛び立とうとしている姿をそのフランス人が見ていて、いつ飛び立つのかな、これ死んだのかなみたいな、そんな感じの何というんですか、小林市弁でスーパーに流すんですよ、スーパーに。それがべらぼうに受けているんだそうです。そして、それは何カ月前に初めて放映したんだそうですが、放映し始めたら、小林市に住みたい、行ってみたいけれども、どういうふうにして行ったらいいですかと、旅館はありますかとか、何とかという紹介がすごいんだそうですよ。これで、役場としては、あいているうちを簡易宿泊所に急改造して、それで１泊1,000円、２週間まではそこにとどまって、どこをぐるぐる歩いてもいいと。そうしましたら、すごい紹介が来まして、決して小林市に住みたいと、小林市を見たいとかという人じゃなくて、隣の何といいますか、何とかという、日南だとか、何とかという町にもいろいろ行って、見たいと、だけれども、そこにそういう１泊1,000円で２週間までいられるというようなその拠点が用意されているので、そこに足場を置いて、その町をいろいろと見歩いて、

どこにこれから第２の人生を、ちょっとオーバーですけれども、ついの住みかにするかというのをどこに探すかということでいろいろと調査中だという人は、その簡易宿泊所がいっぱいになるぐらい来ているんだそうですよ。当然、それを、企画政策課といっても四、五人しかいないんですよ。女の人が３人いて、女の人がその東京から来た40代の女性を連れて、そっちに案内したり、こっちに案内したりして、しかも自分の町だけじゃなくて隣の日南市まで連れていって、こうだとかああだとかという形でいろいろと紹介をして、それで田舎のよさを売ろうとしていると。そういうことを、それをやりながら、地域創生を進めているんだという、そういう番組なんですよ。これは見て、事務局でもぜひ行って、即勉強してきたらいいと思います。いや、本当に、1,000円で泊まれるんだから。役場出張旅費では本当にちゃんとした飯も食えますよ。1,000円で泊まれるようなところあるんだから。そしたら、ある女の人が、あら私ここに住もうかしらなんていうね、ガス、水道、トイレ、台所、全部ついているのねなんて、ここはいいな、ここにしようかしらなんていうね、そういう田舎に対する何もなくともやっぱり魅力といいますか、それをどう売り込むかというのは、ははあこれは物に書いてこれでやろうとか、何とかかんとかじゃなくて、やっぱり人の発想というか、物語をどうつくるかという、そういうものなんだなと、それをどう実行するかということだなと。つくづくああいい番組だなと思って、そういうふうにして、できるだけそこの人口をふやそうとしているんだなと、そこで子供産む、産まないはもう、その次の問題として、そして今度は役場が、いやここに住みついたら、何とかしてそれを、若い人であれば仕事ということをサポートしたいと、しかし我が小林市にはそんなに大きな人を雇ってくれるような企業がない、隣の日南市にかけ合いに行くとか、そういう発想なんですよ。それで、人をそこに住ませるという、これも、物をきちっと書けば、ある施策が実行できるということだけじゃなくて、やっぱりそういう発想と実行力というんですかね、そういうものが大切な地域創生のアイテムじゃないかなというふうにつくづく感じました。そんなことを、昨日、一昨日だったかな、５時半ごろだったんですけれども、ＮＨＫのキャスター３人でいろいろとやっている、私の好きな寺門さんが出ているのでいつも見ているんですけれども、みんなちょっと雑談が入った話ですけれども、ある意味での地域創生の一つのテーマではないかというふうに思いましたので、ちょっと参考までに、何かの話題になればと思いまして持ち上げた次第であります。ぜひ研究してみてくださいよ、どういうあれをやっているのか。ちゃんとコンピューターすれば、ネットでツイッターとかいろんなの出てくると思いますよ。小林市の創生運動とか、テーマといいますか、勉強する価値がある。

○事務局　ちょっと見させていただいて、参考にさせていただくのは参考にさせていただいて。

○尾形会長　ぜひ、ちょっと勉強してみてくださいよ。

　それでは、最後といいますか、最後に近い事項ですが、この本日まとまりました大河原町まち・ひと・しごと創生総合戦略の確定についてということについて、伊勢町長様に答申をするということになってございます。

○事務局　それでは、一旦答申につきましては、隣の応接室でちょっと皆さんでやりたいと思いますので、申しわけないんですが、ご移動していただきたいと思います。

（移動）

○尾形会長　大河原町まち・ひと・しごと創生会議を代表いたしまして、本日第５回目の創生会議を開催し、大河原町まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定についてを取りまとめた次第でございます。詳しくはここに記してございますが、今後とも、町長さんにおかれましては、今回、総合戦略に対する創生会議としての意見を含め、別添の総合戦略の素案を取りまとめましたので、これをもとに、今後、総合戦略の講ずべき施策を計画的に取り組まれることを切にお願いいたしまして、諮問に対する答申とさせていただきます。

　以上でございます。よろしくお願いします。

○伊勢町長　どうもありがとうございました。ご苦労さまでした。

（移動）

○事務局　皆様方の、この総合戦略はいろいろお聞きしたんですが、この会議の内容、または町のこと、今まで何か思っていること、何でも結構です、ちょっとで。まだちょっと時間ありますので、もし何かあればお聞かせしていただき、また次の何かの戦略立てるなり、何なりの際に、ちょっと役立てていきたいなというふうにもございますので、何でも結構です、この総合戦略にこだわらない部分で結構でございますので、今、町でやっていることに対するご意見でも何でも構いません。何かあれば教えていただければと思います。

○尾形会長　何か皆さん、せっかく事務局のほうから何か所見がございましたら、どうぞ。何でも結構ですから、おっしゃってくださいということがございましたので、この今までの会議のことだけじゃなくて、町政全般についてのことでも結構ですから、どうぞおっしゃっていただきたいと思います。

○委員　以前ちょっとお話ししたのかもしれないですけれども、今さっき、既存の企業さんの話、今ありますけれども、小さな事業者さんのほうで売り上げが伸びていないとか、何をしていいのかわからないという、そういういろんなアドバイスを受けたいということが今あります。基本的には、商工会であったりとか、いろんなところでそういう窓口になってはいるんですけ

れども、そういうコンサルをやる方は、ある程度専門的なコンサルする力がないとうまくいかなくて、いろんなところに組織はあるんですけれども、結局それがうまく動いていないというところがあって。

先日、天草市に行ったときに、Ａｍａ‐ｂｉＺ（アマビズ）という、これ言いましたですかね、Ａｍａ‐ｂｉＺという仕組みがあって、奄美市と地元の信用金庫、または商工会、商工会議所とか団体とかが一緒になって、年俸1,200万で公募をしたんです。お二人を採用されて、今Ａｍａ‐ｂｉＺというのが動いているんですけれども、もともとが富士市がやったｆ‐Ｂｉｚというのがモデルになっているということで、そのお話をちょっと講演聞いたんですけれども、それと似たような形でちょっと違うんですけれども、丸森町さんのほうで、齋理屋敷のところに週３回、そういう相談所を設けている。Ａｍａ‐ｂｉＺのほうは、ｆ‐Ｂｉｚもそうですけれども、常勤されていると。公募されたので、今の所長が東大出の方で、いろんな企業を起業された方が東京から家族ごと移住されていると、常勤なので。副所長も東京から移住されて、今、天草市で頑張っているんですけれども、いわゆる費用対効果で、それだけかけてもというぐらい効果が上がっているという話なんですね。何がというと、どうやっていいかわからない方たくさんいて、ちょっとの工夫でいろんなことの活性ができるという事例だと思うんです。一つ、そのときに事例でおっしゃったのが、ある飲食店で、全然、売り上げ伸ばしたいがどうしたらいいんでしょうかという話になったときに、まずはいいかどうかは別に、ぐるなびとか、要するにネットとかのやつを出していますかというと、全く出していないと。私も地方に行ったときなんかそうなんですけれども、食べるところがわからないときはどうやって探すのかという話ですよね。そのときに、インターネットのことやっていますから、よく言うんですけれども、インターネット上にないと、その会社は存在しないんですよと。実在的にあっても、見つけられないので存在していないと同じになりますと。まず最低限、自分が存在しているということを言わなきゃだめでしょうというところから始まって、そこでアドバイス受けたので、その経費をどうしたらいいのか、いや料金に上乗せすればいいでしょうと、そういう単純な形で、そのアドバイス受けてやったら売り上げ２倍になったという話とか、パッケージについてもどうやったらいいんでしょうかとか、そういう個人でやっていて、今従来はこうでやっていたからこのとおりとやっていて、売り上げ伸びないで困っている方たくさんいると思うんですけれども、ちょっとしたアイデアで、やっぱり専門家の方が入ることで、いろいろ劇的に変わることがたくさんあるんだということがあると思うんです。先ほど、会長おっしゃったなまりが非常にアピールになるんだとかという話とかも、全くその方に、従来であれば発想が

起きないところを、外からやることでよって全然効果が変わってくるということがたくさんあると思うので、できればそれが公募1,200万で何か難しいと思うんですけれども、できればそういう専門の方を、いや仙台にあります、紹介じゃなくて町内であったりとか、近隣で、常設は本当は理想だと思うんですけれども、少なくとも何といつでも行けますよと、そこは無料で相談を受けるんですけれども、無料で相談を受けて、ただ公募を受けてやっているので、必ずその成果をだんだん一歩出して、これだけこう、こういう効果がありましたということで、どんどん出しているんですけれども、そういうことをできるような組織というか、仕組みを、今までだと、いや商工会がありますからとかと多分なると思うんですけれども、実際にあちこち見ていて、やっぱり人なんですよね。組織があっても、そこに人がいないと、全く鼓舞が出ないし、従来あった組織でも、ある人が入った途端にすごい成果が出るケースがあります。正直、今の形だとそうやって公募とか、どこかから適任者を持ってくるか、中にいる方を抜てきするかしかないと思うんですけれども、そういう形で組織のあり方、つくるかどうかわからないですけれども、そういう形をやられると創生に直結していくのかなと思います。

あと、地元もの、伸びていないからだめじゃなくて、やり方によってどんどん変わるということなので、その再評価の中で、ちょっと私、今、一緒に絡んで、皆さんにぜひ知っていただきたいのが、フィルムコミッションというのがあります。しろいしフィルムコミッションというのがあって、今これから「俺物語！！」ですか、映画で、今ちょっとテレビでやっていますけれども、この間は「海街ｄｉａｒｙ」というのがありました、４姉妹の話とか。実は仙南でロケをやっているんです。仙南地域でロケをやっていて、それが今フィルムコミッション、白石なんですけれども、実は仙南全域にロケ地を展開してやられているので、このフィルムコミッションをうまく使うことで、既存のものがすごい魅力のあるものになる。それがテレビ、映画、いろんなところを紹介されると、住んでいる方もすごい自慢になるというか、誇りに思えるんじゃないかなと思うので、これをもっと有効活用することが、それ必要だと思っているんですけれども、そのしろいしフィルムコミッションがいろんな制度を使ってやったやつなので、継続性がないので、それを何とか継続性がとれるようにしてあげたらどうかなと。先ほど人と言っていましたけれども、たまたま今そのフィルムコミッションやられている方が、もともと制作をやっていた方で、非常にそういう意味ではいい人なんです、能力のある方なので、ただフィルムコミッション残すのではなくて、その人が残れるような形をとってやれないのかなと、仙南全域でやれないのかなというふうに思っているので、ぜひ大河原町もそういう形での協力をしてあげればいいかなと思う、本当に一目千本桜がこれだけ有名になりましたけれども、映

画ロケになっていないですよね。だから、そういう意味で、やりようはものすごく可能性があると思うんですよね。

後でちょっと資料としてお渡ししようと思っていたんですけれども、佐賀県が、今、タイ人の関係で大人気という、こういう記事があって、これも実は佐賀県のフィルムコミッションがタイのドラマを誘致したんです。ロケ地が佐賀で、タイで、日本が舞台で、タイのドラマですから。タイの方は、そこに行ってみたいということで、今、前年比すごい流入、観光人口ふえていると、タイからの人口、すごいふえているというので記事になっているんですけれども、これお渡ししますけれども、そういうのがあって、タイの方がその何か書いてあるのが、東京、京都はもう当たり前だと、それ以外何かいいところないかというと、佐賀、何もない、田舎で田んぼ、田園風景しかないと言うと、これがいいという話になって。住んでいる人は、別に大したことないでしょうと思って、当たり前のものが実はほかから見ると全く違う価値観を生むという、これも一つの典型的な例だと思うので、そういうことをどんどん情報発信含めてやれる仕組み、しろいしフィルムコミッションなどでそれを有効利用するべきだし、先ほど企業のアドバイスも、ものはなければ、つくれることを考えていくべきだと思いますし、その辺をぜひ取り組んでいただければなというふうに思います。

○尾形会長　ほかに何かございませんか。

将来の大河原の町の主役というのは、やはり今中学生なり、小学生なり、高校生なり、そういう人ですよね。例えば2030年とか、場合によっては2060年。そういう人たちが、例えば高校生、大河原の商業高校の生徒とか、あるいは柴農の生徒さん、例えば2030年の大河原町はどうありたいかとか、どうあるべきかとかというような、何かそういうつづり方というか、作文というか、将来の夢といいますか、そんなことを書いたものなんてないんですかね、よく小学校で将来の夢なんていうのは、つづり方で書きますけれども。こういう施策を進めていくときに、やっぱりそういう将来の主役になる子供たちというか、若者が何を考えているかという、当町、大河原に対してどんなイメージを持っているかということも、ある程度頭に置きながら、こういう施策を進めていくということも非常に無意味ではないと思うんですよね。

○委員　実際のお話なんですけれども、弁護士さんと私たち方向同じになりまして、その方、弁護士事務所の名前が何と千本桜法律事務所という名前なんですけれども、きょうもうちの事務所に遊びに来ていたんですけれども、とにかく事務所は桜町なんですけども、郵便局にしょっちゅう用事があるので、車ももちろんありますし、免許もあるんですけれども、やっぱり健康のためというふうなことで、郵便局とか私の会社だとかと往復全て徒歩でやっているという

方でね。それで、一日とにかく１万歩歩きたいんだと。弁護士さんなので、警察署にも歩いていくらしいんですけれども、何か実家の刑事事件みたいなものには。町のあちこちに、ちょっと１万歩歩こうよというふうなちょっと看板みたいなものを数カ所に立てるというふうなことも、一つの計算になるんじゃないかなというふうに思っていました。みんなやっぱり一日１万歩歩きたいというふうな気持ちあるんですけれども、なかなか現実というのは難しくて、歩こう大河原、例えば一日１万歩目指せとか、何でもいいと思うんですけれども、そんなに看板べらぼうに高いものじゃないので、それをちょっと世論化して、町のあちこちに、数カ所につけていただけるとなおよろしいのではないかなというふうに思っていました。

○尾形会長　すぐにでもできるんじゃないですか。いろんな人を。

○事務局　ちょっと標語みたいな形になると思うんですけれども、これも町民の皆さんから公募しながらやっていくというのも、一つの手なのかなと。町でつくっただけでは、それは町のものしかないので、皆さんにわかっていただくという部分では、そういうふうな標語を募集しながら、こういうことでやっていきますとかということで皆さんの気持ちを高めていって、この歩きたくなるまちを実現していっているかなというふうにはちょっと思っております、今、ちょっと教えていただいたということで。

○尾形会長　私ね、ヒルズさんね、いろいろ興味があるのが、ヒルズさんのとんとん肉をいろんなところから買いにくる人、たくさんいますよね。実は、私のほうの友人でも、東京の連中でも、来ると必ず、帰る前に必ずヒルズに行って肉買ってこいと、こう言うわけ。ところで、我が町にそういう何といいますか、ブランドがあるので、そこに来た人がただ買いにきて、すぐさま帰るんじゃなくて、この人たちがどこか歩いて、どこかで散歩しながら、あるいはまたほかに銭を落としてくれるなり、何かするような、そういう何といいますか、傾向というか、それもわかりますか。例えば、おたくのほうで、どちらからおいでになりました、仙台ですかとか、あるいは築館ですかとかという、何かそんなあれを何か調査されたことがありますか。

○委員　私も会社自体で行ったことは実際にないですけれども、ちょっと以前はポイントカードであったり、そういったときに名前とか、住所とかいただいていたことはあったんですが、個人情報を出したくないという方が圧倒的に多くなって、ちょっとそれを１回やめた経緯がありまして、現状は今そういった調査をしたことはないんです。

　ただ、県の方が、直売所に来られている方の傾向というのを調査したいということで、昨年、火事になる前に２日間ほど調査には来られまして、そういったところで来場者の方の傾向というのは調査されたことはあります。ただ、平日ですとやっぱり近隣の方がメーンであったり、

大河原、村田、柴田、白石というようなところだったんでしょうかね。あとは土日になりますと、比較的やっぱり仙台、山形、福島のちょうど中間に大河原がありますので、ほぼ３等分になるような傾向はあります。大河原、仙台、福島、山形、その範囲に含まれる方がちょうど３等分ぐらいの傾向でいらっしゃったというふうな状況はつかめてはおります。実際にそのほかの日でも、駐車場に行ってみたりすると、大体その車のナンバーでいうと、そういったところがありますので、大河原に土日で来られて、弊社の施設にいらしたという方はそういった方がちょっと多かったかなというふうには思います。あとは、桜の時期ですと、桜の時期は多分特殊だとは思うんですけれども、全国からいらっしゃるので、やはり蔵王と土手のちょうど中間に、通り道にこちらの施設ありますから、桜まつりの会場に寄って、それから蔵王に行かれる方、逆にお風呂に入って、翌日朝早くから桜を見にいらっしゃる方というふうな形で、交通の要所に大河原があるというふうな考えもありますので、そこいろんなところから人はいらっしゃることができる場所に大河原あるなというふうな、これをうまく観光に利用できたらなというのは常々あります。

○尾形会長　せっかくそういうブランドを求めて来られる方が多いわけですから、その方々がただ帰るバスがどこかに帰っていくということだけでは、非常にもったいないなと、町としても。何かそこに寄っていただけるような、さらに付加価値といいますか、活用ができるようなスポットといいますかね、そういったことが何かできないものかなと、そういうのも一つの創生につながってくることではないかなとよく思うんですけれども。

○委員　そうですね、他町村などからいらっしゃる方というのは、やはりいろんなパンフレットとかを要る、見ていますと、郊外、町のパンフレット、リーフレット、あといろんな置いておきますと、かなり持っていって、その場で見てわからないことは聞いてくる、これどこにあるんですかというようなのも聞かれたりしますので、そういったものをうまく、うちの施設などをうまく利用していただいて、そういったものでＰＲして、町に、いろんなところに行ってもらうというのも、スタンプラリーではないでしょうけれども、そういった取り組みも観光という悩みの中ではいいのかなと。県、地方振興事務所さん主体でそのスタンプラリーとかいろいろやられてはいますけれども、大河原町の中であったり、近隣で完結するスタンプラリーというのも最近なかったかなと思いますので、そういったものも大河原町の観光というところではおもしろいのかなと。

○尾形会長　わかりました。

　間もなく予定されていた４時が近づいてまいりましたので、そろそろこの辺で会議自体を終

了したいと思います。

それでは、町長からご挨拶をいただきます。

○伊勢町長　委員の皆様には、約半年にわたりまして、大変熱心な、そしてすばらしいアイデアをいただきまして、心から感謝申し上げたいと思います。大変お忙しいところ、５回出席していただいたわけでありますけれども、私、最後、皆さんのご意見を拝聴して、本当に、中、出席しなかったんですけれども、すばらしい議論だったと。議事録も私読んでおりまして、大変活発なご意見をいただきました。

また、創生会議のほかに、住民アンケート、あるいは住民懇談会、また役場のプロジェクトチーム、そして創生本部会議、いろんなところでご意見を拝聴してきたわけでありますけども、そのご意見の総括として、３つあったかというふうに思っております。

１つは、企業誘致、あるいは雇用創出による活力を目指せということと、それから子育て環境の充実やあるいは仕事と家庭の両立の促進による未婚率の低減、こういったこと、３つ目には、全ての世代において健康で幸福で暮らせるようなまち、こういったものを目指しているということがわかりまして、そんなことで、今後は可能な限り人口を維持可能できるように、持続可能な社会を目指して頑張ってまいりたいというふうに思っております。副題として「活力ある健幸都市を目指して」ということでありますけれども、これが現在の本町の町民の最大公約数ではないかというふうに受けとめた次第でございまして、この方向で今後頑張ってまいりたいというふうに思っております。

また、最後のその他の雑談と言ったらいいですか、中でも大変貴重なご意見をいただきまして、例えば蔵王ともちぶたということでありますけれども、これはこの地方創生をやるのには単に一つの町だけでは不可能だと、これは増田レポートでもはっきりと地方の拠点都市をつくれという方向がありますけれども、そういったことを、方向を見据えるならば、今後、広域連携というのは大変大事でありまして、広域連携で物産観光振興、こういったことにも取り組んでまいりたいということで、これは場を改めて仙南広域、あるいは県南のサミットという会合がありますので、そんな中で町としてもいろいろ提言していきたいと思っておりますし、またフィルムコミッションにつきましても、こういったことがあるということで、県南全体でしっかり取り組んでいこうと、こういったことも大いに参考になった次第でございます。

そんなことで、今後、広域連携、そして広域連携だけでも私は不十分だと思っておりまして、国や県に対していろいろ意見を言っていきたいという皆さんの声を十分に反映できるように、国・県に対してもいろいろと意見を述べてまいりたいというふうに思っておるところです。

ちょっと最後、細かくなりますけれども、特にＩＴの専門家とか、それから企業の目ききといったらいいですね、新しいことを、どんなことをしたらいいのかとか、そういったことのご意見いただきまして、本当に貴重な多くの意見をたくさんいただきました。これを今後、実現をするために、役場一体となって頑張ってまいりたいと思っておりますし、また最後、検証についてということで、（３）番になりましたけれども、あと４年間委員を継続してもらいたいということ最後ありましたので、年に１回ぐらいですか、１回と言わず、２回でも３回でも開催していただければ、公式的には年１回だそうですけれども、中１回ぐらい、飲み会も含めていろいろ意見交換できれば、よりこの創生会議がすばらしいものになってくるというふうに思っておりますので、そういったことで今後ともいろんなことお気づきの点ありましたら、ぜひ何なりとおっしゃっていただいて、町の発展にご尽力賜れば、大変ありがたいと思っております。半年間、大変お世話になりました。ありがとうございました。

○事務局　それでは、第５回の会議を閉会するに当たりまして、副会長から一言、所見を含めましてご挨拶をいただきたいと思います。

○金井副会長　このたび第５回ということで、これまで大変皆様ご協力いただきまして、まことにありがとうございました。副会長として何もできておりませんけれども、皆様のご協力、それからご指導などを含めまして、大変感謝を申し上げます。

私の所見ですけれども、大河原大学に非常に期待を持っておりますが、やはりネーミングのところが気になるところであります。例えば、コミュニティー・カレッジのような形で、コミュニティーでつくっていくような意味合いも込めて、例えば、ちょっと横文字でカレッジ的なものを入れたいとか、理想を言えば、初めの学長みたいな存在も、初めにもう設けて、その方も市民にやっていただくとか、そういった形で、できる限り住民、市民の方がつくる大学というような構想が進んでいければ理想的かなと考えております。

どんな政策も、施策も万全はございませんので、この先いろいろ問題も出てくるかと思います。それに際しまして、常に現状把握、現状分析を繰り返しながら、いわゆるＰＤＣＡサイクルごとに、まだこの後も引き続き皆様とご検討重ねながら、よりよい戦略、より充実した質の高い戦略を展開していただけたらと考えておりますので、皆様引き続きご協力のほどよろしくお願いいたします。これまでありがとうございました。

○事務局　それでは、これで大河原町まち・ひと・しごと創生会議の第５回会議を終了させていただきたいと思います。大変ありがとうございました。